



## いわさきちひろ ぼつご50ねん こどものみなさまへ みんな なかまよ

2024年10月12日(土)～2025年1月31日(金)

主催：ちひろ美術館 協力：谷川俊太郎 講談社

後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、杉並区教育委員会、西東京市教育委員会、練馬区



本展では企画協力者の塩瀬隆之氏による「問い」とともに、ちひろの作品に向き合い、みんなで「へいわ」について考える機会をつくります。

※前編は安曇野ちひろ美術館・美術館日よりNo.114に掲載しています。

**みんなのこんにちは**

展示室に入り、最初の額の前に立つと、子どもたちが現れて、こちらに向かって「ボンジュール」、「ナマステ」、「ハロー」……、14の言語で「こんにちは」とあいさつをします。本展のディレクターをつとめるアートユニット plaplast が制作したインタラクティブな作品のひとつです(図1)。不思議なことに、子どもたちが本当に語りかけているように感じられます。「子どもはインターナショナル」と語ったちひろが、世界共通の子ども心をとらえている証なのかもしれません。知らないことばでも、ちひろが描く子どもたちにあいさつをされたら、すぐになかよくなれそうな気がしてきます。

**このこは だあれ?**

木の箱がならんでいます。箱のなかをのぞきこむと、子どもの顔が見えます(図2)。つぶらなひとみのいきいきとした顔、あどけないあかちゃんの顔、悲しそうな顔……。それぞれの顔が描かれた絵は展示室のなかに展示されています。どの絵の子どもなのか探してみてください。そして、子どもたちがどんな境遇にいるのか想像してみてください。

**ひとり ふたり みんな**

「へいわは なんにんからはじまる?」この問いに、みなさんはどのような考えがうかんできたでしょうか。ひとりからでしょうか。それともふたりからでしょうか。ひとりでも、ふたりでもないことを、みんな、というのでしょうか。ちひろが描いたひとりたらずむ子どもや、友だちと遊ぶ子どもの絵を見ながら、考えてみてください(図4・5)。やさしい問いのようですが、さまざまな考えがうかんでくることでしょう。

**となりにきたこ どんなこ?**

ちひろの絵本『となりにきたこ』には、おとなりに越してきた同じ年頃の男の子と遊んだちひろ自身の思い出が映し出されています。この絵本には、ふたりの子どもがなかよくなるまでのもどかしい気持ちがリアルに描かれています。plaplast は、ふたりの関係をはかるベンチをつくりました(図3)。ふたりがどこに座ったら、お互い心地よくいられるでしょうか。想像しながら座ってみてください。

**企画協力 塩瀬隆之 (京都大学准教授/システム工学、インクルーシブデザイン)**

日本科学未来館ロボット展リニューアルで問いの監修、徳島県立博物館リニューアルでインクルーシブデザインの観点から監修するなど、多様な人を深い学びに誘う「問い」のデザインを探究し続けている。

「平和のはんたい」を考えるとしたら、みなさんはどんなことばを思い浮かべますか。もし「戦争」や「争い」といったことばを使わないとしたら、どんなことばを頼りにしますか。いわさきちひろにとって、心を痛めたであろう戦争について直接扱った作品は多くはなく、それ以上にただ子どもを描き続けたのです。「子どもは、そのあどけない瞳やくちびるやその心までが、世界じゅうみんなおんなじ」。子どもの絵本を描いてきたちひろならではのこの視点こそ、本企画で平和と向き合う拠り所です。何か人生のかなしいときや、絶望的になったときに、その絵本のやさしい世界をちょっとでも思いだしてほしいというちひろの声、平和に向き合うわたしたちの力になると信じて。



図1 plaplex みんなのこんにちは 2024年



図2 plaplex このこはだあれ？ 2024年



図4 いわさきちひろ ロンドン橋がおちる 1966年



図3 plaplex ふたりのベンチ 2024年



図5 いわさきちひろ 木の葉のなかの少女 1966年



図6 plaplex だあ・いー・あ！ローグ 2024年



図7 plaplex スーぼん タンレーン 2024年

## ともに考える

本展では、展示だけではなく、ワークショップを通して、来館されたみなさんがそれぞれに「へいわ」について考えを深めたり、他の人が考える「へいわ」について知ったりする機会をつくれます。

館内には、塩瀬氏が考えた約30の「へいわ」についての問いがいたるところに設置されています。例えば「へいわ とはれのひ どっちが あたたかい？」「へいわは つくるもの？ みつけるもの？」など。思わぬところで、意外な問いに出会うことでしょう。



展示室のなかには、ワークショップに取り組むことができるコーナーもあります。「へいわ を あなたの ことばでいいかえると？」という問いに対して、それぞれの考えをふせんに書いて、窓ガラスに貼っていきます。「家族とおいしいご飯を食べること」「安心して昼寝ができること」など、子どもから大人までみんなで協力して、いろいろな視点、たくさんのことばで「へいわ」を探してみませんか。他の人のことばから新たな気づきも得られることでしょう。

(原島 恵)

「いわさきちひろ ぼつご50ねん こどものみなさまへ あれ これ いのち」関連イベント

## 5/12(日) ワークショップ「虫たちの小さな公園づくり—みちくさと表現—」

小学生親子を対象に開催した、アーティストの岩田とも子さんによるワークショップのようすを紹介します。(藤澤恵)  
はじめに、ちひろの描いた小さな生きものの絵を見て、描かれた虫たちが住む世界はどんなふうになっているかを想像してみました。外の世界を予想したのち、実際に美術館から出て自然物を採集しました。近くの公園に向かって、みちくさしながら進みます。通りがかった畑ではワークショップを開催した日(母の日)と関係の深い植物に出会いました。



ハハコグサという黄色い花を咲かせる草です。その他にも道端の植物について岩田さんの解説を受けながら「いろんな色のもの」「いろんな形の葉っぱ」「やわらかいもの」など採集の手がかりが書かれたリストを持って歩きました。公園では木の幹と同じ色の虫なども見つけました。

再び美術館に戻り、採集したものを、今度は虫眼鏡で覗きました。「文字通り虫の気持ちになって見ることができるかもしれないよ」と岩田さん。

次はいよいよ虫たちの公園づくりです。観察をもとに、虫たちが楽しく過ごせる空間を紙の上に表現しました。もし虫たちが遊ぶなら遊具はどんな素材なのか、どんな虫たちが来るのかも自分たちで考えます。制作には色紙をコラージュする手法や色鉛筆を用いました。切った



紙を動かしてみて、虫たちが行き来するところを想像して位置を決めたり、採集した木の実を作品に貼り付けたり、さまざまな工夫がみられました。最後には、虫たちがどう遊ぶのか、みちくさするなかで見つけ作品に登場させた草花など、自分の作品について発表しました。

参加者からは「花や草を集めるだけなのかな?」と思っていたが、アーティストといっしょに作品化できたのが良かった」などの声が寄せられました。

## 6/24(月) plaplax+ 佐藤卓「いわさきちひろ ぼつご50ねん」あそびながら生まれなおす

当館のロゴなどのアートディレクションを手がけてきたグラフィックデザイナーの佐藤卓さんと、「いわさきちひろ ぼつご50ねん こどものみなさまへ」の展覧会のディレクターを務める plaplax(近森基さんと小原藍さん)が、本展をとおして発見したちひろの新しい魅力について語り合いました。(上島史子)

**近森** 「みんな なかまよ」展では、観客参加型の作品《だあ・いー・あ!ローグ》(P3 図6)をつくりました。円卓のまわりで声を出すと、それが絵の具やパステルの線に変換されるんです。ひとつのテーブルを囲んで、いろんな人たちが対話する。そこから平和が始まるんじゃないかというようなことを考えました。この作品では、ちひろさんの水彩画とパステル画のなかで、よく使われている色を8色抽出して使っています。それぞれの画材と色の組み合わせによって、色と色(声と声)が混ざり合ったり、逆に混ざり合わないというような、色どうしの関係性を考えて全部の色の組み合わせをプログラミングしています。そうすると、色が会話しているように見えてくるんです。引き寄せられたり、逆に弾き合うようなこともあって、それが人の関係性のようにも見えてくる。それを含めて「対話のテーブル」なんです。

**佐藤** plaplaxさんは本当にいわさきちひろの絵をよく分析して、理解して、それを体験型の展示にしてくれてるんですね。plaplaxさんならではの抽出の仕方、そのやり方にすごくオリジナリティがあって、だれも見たことがない、体験した

ことがないものになってる。勝手に解釈して作品をつくってるわけではない。

**近森** それは卓さんのデザインマインドに影響を受けていると思います。「ちょうどいい」ものづくりの考え方や、いかに自己主張しないようにつくるかということがデザインだ、ということか。僕たちの作品を見てほしいというより、いわさきちひろを理解するための入り口をどうつくったらいいか。ちょっとデザイン寄りな立ち位置だといえるかもしれません。

**佐藤** plaplaxさんの参加型の作品に触れると、なんなんだろうこの優しさはっていつも思うんですよ。向こうから力だねじ伏せられるのではなく、つい入っていきたくなるような入り口をつくってかれている。自然と体が動いちゃったみたいな。アフォードされている感じ。

**近森** 松本猛さんがおっしゃっていたんですけど、普通は作家が亡くなるとそこでもう新しい作品が生まれ出されなくなる。でも、今の人たちがちひろの作品を素材として扱うことで、新しい時代をちひろが生きてくれる。それがすごく嬉しい。そこで、僕は正直ほっとしたんです。ちひろさんの絵を使ってこんなことしちゃっていいんだろうかと、すごくドキドキしてたんです。ちひろさんがメディアをどうとらえていたかを考えることも、映像をつくるときのヒントになりました。例えば、『となりにきたこ』の絵は、表紙では、男の子が左にいて、女の子が右にいますが、なかのページでは逆向きなんです。ちひろさんは印刷メディアをゴールとして見据えてるから逆

版もOKなんです。絵本作家ならではの絵の扱い方を考えることが、ちひろさんの絵を扱うときの自由度を決めることに繋がっていると思います。

《スー ぼん タン しーん》(P3 図7)では、スクリーンの前に木製の4つのインターフェイスがあります。それぞれ触れると、バイオリン、太鼓、ピアノ、波の音なんかの環境音と同時に、ちひろさんの絵も出るようになっていきます。つまり、音のセッションをしながら、ちひろさんの新しい絵が瞬間瞬間生まれてくる。たくさん重なったときに不協和音になるのを避けるため、色や画材、絵の出方もグループで分けて、全体が調和してなんとなくひとつの絵になるようにプログラムしています。このインターフェイスも、自分で木をノミで削ってつくりました。「平和」が展覧会のテーマだったので、いろんな人が参加できるようにしたかった。触れる彫刻のような、目が見えない方でも楽しめるものが欲しいと思って。

**佐藤** それはとても大切なことだね。いまや小さいころからスマホやタブレットでなんでもやるけど、それと同時に虫に出会ったり、木を削ったり、身体性を同時に会得していかないと、頭だけで世の中を動かす人に育ってしまう。展覧会場では、デジタルかアナログかは関係なくて、両方が空間に溶け込んでいたものね。どうしたら、かつて私たちが経験していた環境をこの時代に変換して、準備できるかが、大人の責任としてあると思うんです。plaplaxさんがつくる体験の空間はそのためのひとつの方法だと思う。

ひとこと  
ふたこと  
みこと

7月14日(日) ☁️🌧️  
絵のなかにもぐりこんだよう!!  
前田祥臣

7月19日(金) ☁️  
母とともに電車で揺られ、やって来ました。閑静な住宅街のなかであらわれた美術館は、まるで子どもが夢みた秘密基地のようでした。水彩やクレヨンで描かれた世界は、いくつになっても「子どものころの記憶」を呼び覚まします。とても幸せな気持ちになりました。

7月28日(日) ☁️  
目の前のカレンダーには、キーウの絵。子どもたちが笑顔でいられる世界をつくるのは、大人の責任ですね。ひとりひとり、微力ではあるけれど無力ではないと信じたいです。もうすぐ、日本にも暑い暑い8月がやってきます。 T.H.



8月4日(日) ☀️  
中国の小学校の美術教師です。『窓ぎわのトットちゃん』でいわさき先生の作品を見て夢中になり、初めての日本旅行のスケジュールに、ちひろ美術館を入れました。いわさき先生の作品を拝見し、子どもへの愛がよくわかり、とても勉強になりました。いわさき先生の作品を好きになってよかったです。これからも、いわさき先生と同じように、子どものために、愛をこめて、仕事をしたいと思います。いわさき先生、本当にありがとうございます。 レオ

8月6日(火) ☁️  
初めて来ました。聴こえないばあばのふたり旅。子どものあどけない笑顔の美しさにひかれました。地元で、手話による絵本の読み聞

かせをしている私たちも、ちひろさんのあふれる愛情に負けないよう(いや、「目指して」のほうが正しいかも)、手話を表情豊かに美しく表現したいと、思いを新たにしました。 Sayaka.O

8月21日(水) ☀️  
3歳の娘とふたりで来ました。ゆっくり見ることはできませんが、娘はお部屋ごとに楽しみを見つけ、「つぎにいかないー!」と書いていました。

8月31日(土) 🌧️  
中2生成、小4いろはと3人、夏休み最後のイベントとして、大好きなちひろさんの絵を見に。こうして3人で歩くのはもう少し。今日、今のひとときを大切に大切にしたい。好きなこと、大切なことの話をしなが。 ママパティシエ

美術館  
日記

5月10日(金) ☀️  
「また来ちゃった!」お昼過ぎの館内で、女の子3人組から元気な声。先日、図工の授業で鑑賞に来た近隣の小学生が、再び来館してくれた。「あれ?学校は?」と聞くと「今日は4時間授業だから」「子どもはタダだし!」とにっこり。「こどものみなさまへ」と題した展示に子どもたちだけで遊びに来てくれたことがうれしい。

7月26日(金) ☁️  
「ちひろが育てていた花を」という園芸ボランティアの方からの提案で、この夏は種から育てた濃い紫色の朝顔が庭を彩っている。「朝顔が五つ咲き、小雨がぱらついて朝をむかえました。」ちひろが絵本のあとがきで語ったように、毎朝可憐な花をつける朝顔に、本格的な夏の訪れを感じる。



8月8日(木) ☀️  
いわさきちひろがこの世を去って50年となるこの日、両館で「ちひろ忌」を開催。館内にちひろの写真を飾り、ちひろが絵に込めた世界中の子どもたちの幸せと平和を願う気持ちを来館者と共有した。東京館のアトリエトークには定員を上回る申し込みがあり、ブログやSNSに掲載したちひろのひとり息子・松本猛のメッセージ動画には、100件を超えるコメントが寄せられた。今なお世界では、戦火が止むことはないが、ちひろの絵に共感する人々の気持ちに勇気づけられた。

8月18日(日) ☁️☀️  
「子どものための鑑賞会」に、3~6歳の子どもと保護者8組が参加した。講師とともに展示室をめくり、気になった作品と、その理由を記録していく。ちひろの作品「貝をならべる少年」を選んだ3歳の男の子は、「とげとげがあるのが好き!」と回答。よく見てみると、さまざま形の貝がらのなかに、ちゃんとはげのある巻貝があり、子どもの視点の細やかさに驚いた。「初めて親子で来た美術館で、たくさん好きな絵を教えてください!」と感想が寄せられた。



新収蔵  
作品紹介⑨

いわさきちひろ  
「ロウソクなどを手に  
歩く8人の子ども」  
(1950年代前半・右図)



2023年10月、美術館に1通のメールが届きました。20年以上前に他界されたお父さまの遺品をあらためて整理したところ、いわさきちひろの作品を見つけた、とのこと。拝見すると、これまで当館でも把握していなかった初期の作品4点で、1950年代前半の画風を知る上でとても貴重なものでした。

「療友通信」の現物は見つかっておらず、発行期間や部数、どのように頒布されていたかなど詳細は不明です。残された日記などからご遺族が推測するに、お父さまが結核療養所に係わるボランティア活動の一環で、有志で発行していた同人誌のような冊子だったといえます。

ちひろが発行者へ宛てたはがき2枚もいっしょに発見されました。「この度療友通信お送りいただきまして有難うございます。こんどの表紙は前のよりずっとよく可愛く印刷できておりましたので大変嬉しくございました。(中略)また療友通信向きのものができましたらお送りいたします。あの通信はとても楽しいもので、私などときどきいろいろな人の文をよみ、むかしの自分のことを思い出したりしてなつかしい気持ちになります。」(原文ママ1953年9月24日消印のはがきより・左図)

西宮在住だった発行者は、どのようにちひろと出会い、仕事を依頼したのでしょうか。度重なる引



越しや阪神淡路大震災での避難所生活などをめぐり抜け、70年もの間大切に保管されてきた、これらの作品資料。ご遺族からの寄贈を受け、初夏から秋にかけて安曇野館で展示、東京館でも今後の展覧会で紹介する予定です。(中平洋子)

ちひろ美術館・東京イベント予定 各イベントのご予約・お問い合わせは、ちひろ美術館・東京イベント担当へ。

掲載内容は予告なく変更する場合があります。最新情報につきましては、公式サイトをご覧ください。お問い合わせください。

TEL.03-3995-0612 chihiro.jp   

### 〈展覧会関連イベント〉

#### ■紙の葉っぱをつくろう with 「みんな なかまよ」展

「みんななかまよ」展の企画協力者である塩瀬氏と、おもちゃ作家の佐藤さんと、葉っぱをテーマにワークショップを行います。

○日時：11月30日（土）10：00～12：00／14：00～16：00

○講師：佐藤 隆（子どもの手づくりおもちゃ作家）、

塩瀬 隆之（本展企画協力者）

○定員：各回 10組 ○参加費：無料（入館料別）

○対象：小学生と保護者

○申し込み：要事前予約（10／30より公式サイト、TELにて）



#### ●plaplaX アーティスト・トーク

##### 「いわさきちひろの魅力と秘密」

本年、展覧会「いわさきちひろ ぼつご50ねん こどものみなさまへ」のディレクターを務めたおふたりに、その舞台裏や、展覧会の準備をとおして感じたちひろの新たな魅力を伺います。

○日時：12月15日（日）14：00～15：30

○講師：近森基+小原藍（plaplaX）

○聞き手：福田幹（編集者、アートコーディネーター）

【ちひろ美術館・東京 図書室】

○定員：30名 ○参加費：1,000円（入館料別）

【オンライン】

○定員：80名 ○参加費：700円

○申し込み：要事前予約（11／15より公式サイト、TELにて）



plaplaX ポートレート

### 〈会期中のイベント〉

#### ●わらべうたあそび

○日時：11月16日（土）11：00～11：40

○講師：服部雅子（西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰）

○定員：8組16名

○参加費：無料（入館料別）

○対象：0～2歳児と保護者

○申し込み：要事前予約（10／16より公式サイト、TELにて）

#### ■出張「子育てのひろば」

展覧会を見る前後に、「こどもの部屋」で遊んだり、保育の専門家とおしゃべりしたりしませんか。

○日時：11月19日（火）10：00～15：00

○参加費：無料（入館料別）

○申し込み：不要

○協力：特定非営利活動法人 手をつなご

#### ■アートリップ：アートの旅

○日時：11月21日（木）14：00～15：00

○講師：松尾真紀子（Arts Alive 認定アートコンダクター）

○定員：4組

○参加費：無料（入館料別）

○対象：認知症の方とご家族や介護の方

○申し込み：要事前予約（10／21より公式サイト、TELにて）

#### ■手話通訳つきギャラリートーク

○日時：12月7日（土）14：00～14：30

○定員：15名

○参加費：無料（入館料別）

○申し込み：要事前予約（11／7より公式サイト、TELにて）



#### ■ワークショップ ひとりひとりの1ページ 工作絵本をつくろう

今までで、とっもうれしかったこと、楽しかったことをテーマに、工作絵本をつくります。

○日時：12月21日（土）10：30～12：00

○講師：富田めぐみ（NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会 代表理事）

○定員：8組 ○参加費：無料（入館料別）

○対象：外国語を母語とする3～12歳児と保護者

○申し込み：要事前予約（11／21より公式サイト、TELにて）

#### ■：文化庁 令和6年度 Innovate MUSEUM 事業

#### ●松本猛ギャラリートーク

ちひろのひとり息子である松本猛（ちひろ美術館・常任顧問）が、展覧会の見どころや、母・ちひろの思い出を話します。

○日時：12月22日（日）14：00～14：30

○参加費：無料（入館料別）

○申し込み：不要

#### ●成人の日特典

2025年1月2日（木）から13日（月）まで、新成人の方は無料でご入館いただけます。

#### ●ギャラリートーク

○日時：毎月第1・3土曜日 14：00～14：30

○参加費：無料（入館料別）

○申し込み：不要

※12月7日は手話通訳つきのため、要事前予約

#### ●絵本のじかん

○日時：毎月第2・4土曜日 11：00～11：30

○参加費：無料（入館料別）／申し込み：不要

○協力：NCBN（ねりま子どもと本ネットワーク）

〈予告〉

「いわさきちひろ写真資料目録」（10月末完成予定）

A4／240ページ／モノクロ&カラー／初版500部

ちひろ美術館で収蔵する、いわさきちひろの写真資料約5000枚のなかから約2000枚を掲載予定

CONTENTS 〈展示紹介〉いわさきちひろ ぼつご50ねん こどものみなさまへ みんな なかまよ …②③／〈活動報告〉ワークショップ 虫たちの小さな公園づくり—みちくさと表現—／plaplaX+佐藤卓いわさきちひろぼつご50ねん あそびながら生まれなおす…④／ひとことふたことみこと／美術館日記／新収蔵作品紹介…⑤

美術館だより NO.222 発行 2024年9月27日

 ちひろ美術館・東京